

一九九四年八月四日 第三種郵便承認  
H S K 毎月十二回 (一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日) 発行



# HSK



## 季刊わたぼうし

NO.89  
'11秋

シリーズ・七尾市コミュニティバス  
「ぐるっと7」で巡る七尾の旅 ③

### 今回の目次

※シリーズ・七尾市コミュニティバス「ぐるっと7」で巡る七尾の旅 ③	
・プロローグ(前置き)	2
・「青山彩光苑」正面玄関	2
・①「ぐるっと7」直津町	3
・「県道・末吉七尾線」を歩く	3
・②「ぐるっと7」馬場橋口	4
・③「ぐるっと7」赤浦町	5
・赤浦湖と「あかうらはし」	5
・青山～赤浦の動物たちとのふれあい	5
・赤浦に住む白鳥	6
※「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」について語る会	
・開催にあたり、苑長、主催者のあいさつ	8
・講演「二次障害(脳性麻痺)の概要と手術」	11
※七尾・羽咋で福祉まつり	16
※編集後記	16



この機関紙は障がいのある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

# シリーズ・七尾市コミュニティバス 「ぐるっと7」で巡る七尾の旅 ③

○コミュニティバス「ぐるっと7」を使って七尾の名所散策・人との出会いを求めて

## プロローグ(前置き)

「ぐるっと7・西回りコース」は「2001年青山彩光苑障害者週間」の企画で「七尾市に車いすで乗車できるバス『まりん号』を彩光苑へ」を合い言葉に運動、署名活動を行い、夢を実現させたものです。

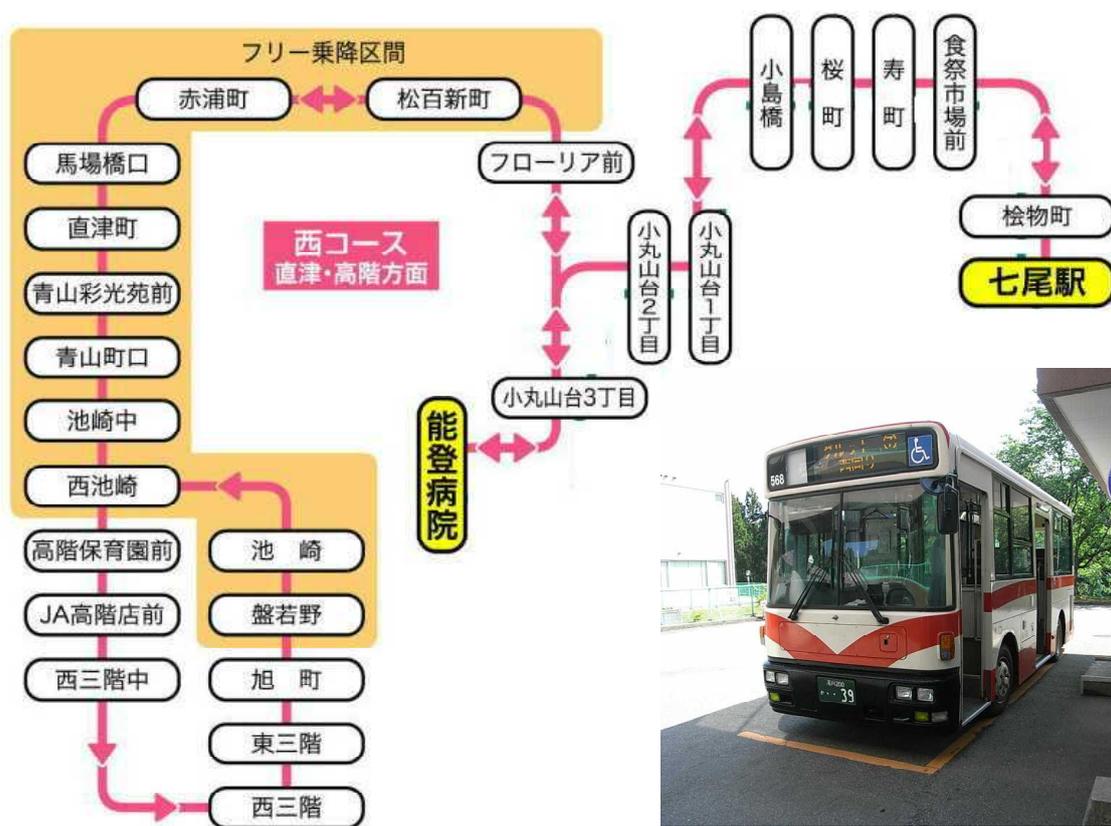
この署名活動は、車いす生活者だけではなく、高階・直津・赤浦地区の住民や、小丸山小学校に通学する児童の足の確保のためにも皆が力を合わせ行いました。青山彩光苑の利用

者・職員・地域住民・地元選出の市議員などが参加し、武元七尾市長に車いすが乗車できるコミュニティバス運行の陳情をしました。

その運動の成果が実り、2002年11月より七尾駅から恵寿総合病院・公立能登総合病院・青山彩光苑を経由し高階地区を結び、車いす2台が乗車できるコミュニティバスの運行が開始しました。

今後、青山彩光苑～七尾駅の停留所を数年かけてデジカメで撮影し、観光やバリアフリー状況を取材して報告したいと思います。

ぐるっと7路線図(取材は西コース青山彩光苑～七尾駅)



(バス路線図提供・七尾市)

前号からの続き↓

# ① 「ぐるっと7」 直津町



## 県道・末吉七尾線を歩く



看板を拡大すると

直津バイパスを横断して、県道・末吉七尾線を通って赤浦方面へ向かっていると、仏壇店の周草花が咲いていたので紹介します。



マリーゴールド



直津町の仏壇店



紫蘭(しらん)

## ② 「ぐるっと7」馬場橋口



馬場橋口バス停にあるお地蔵さん



お地蔵さんの横にある「白山神社」



町内の掲示板



町内の火の用心

「ぐるっと7」に乗っていると窓からしかお地蔵さんを見ることが出来ません。今回、電動車いすで歩いてみて、お地蔵さんのところで手押し車を押したお婆ちゃんと出会い、お地蔵さんの由来を聞きましたが、分らず残念でした。

静かな田舎の様子をまとめてみました。

### ③ 「ぐるっと7」 赤浦町



赤浦バス停



### 赤浦湖と「あかうらはし」



赤浦湖



あかうらばし

### 青山～赤浦の動物たちとのふれあい

青山町から赤浦町まで歩いて行くと、可愛い動物たちとのふれあいがありましたので、紹介させていただきます。



「青山彩光苑」で生まれたツバメ



格好良く写してね

僕は七尾市赤浦町に住んでいます。



昨年10月に石川県七尾美術館・小丸山台方面へ撮影の帰る途中に出会った2頭のワンちゃんです。



番犬、モモです。よろしく。



下手なカメラマン、ボクをうまく撮れよ

番犬「モモちゃん」との出会いがありました。撮影者に怒って吠えるワンチャンでした。

先日、バスの車窓から家族と散歩している「モモちゃん」の一年ぶりに姿を見ました。

## 赤浦に住む白鳥



昨年6月は一羽ボッチ。寂しいな～

左下は体に障がいを持ち、北へ帰ることが出来なくても、たくましく生きている白鳥。

今年は彼？彼女？を見つけ、8羽の雛が誕生し家族が出来たが、天敵に狙われ5羽を失い、現在3羽の雛が育っています。バスの車窓から親子5羽の姿を見ることが出来ます。



11月7日(月)午前に撮影。2羽を確認。



11月8日(火)午後に撮影。親子5羽を確認。



上はサギかな？カラスと仲良く遊んでいたが、撮るとき、カラスは飛び立って残念。

～次号へ続く～

## 「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」について語ろう会

### 【はじめに】

前号から取り上げている「脳性麻痺の二次障害」の第一弾の企画として、当機関紙・編集委員会の主催、社会福祉法人徳充会「青山彩光苑」の後援で講演と懇談会を行いました。

前号で懇談会の企画内容と当日の様子を写真にて紹介しましたが、今号から講演と懇談会の内容を順次掲載していきます。

### 【企画の経緯】

最近、脳性麻痺を伴う友人が手足のしびれ、痛み、<sup>くび</sup>頸の痛みを訴えたり、頸の手術を受けた、頸の障害・加齢とともに歩行が困難になってきたなど、という話を多く聞くようになりました。

同じ悩みを持たれる方の体験を聞き情報交換をし、脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)の正しい知識と理解につながることで、生活の場面で役立つことになればと思い企画してみました。

### 【目 的】

同じ悩みを持っている方たちの話し合いによって、悩みや痛み解消の情報交換・学ぶ場にしりたい。

### 【日 時】

2011年5月25日(水) 13時30分～15時30分

### 【場 所】

「青山彩光苑」西館一階 多目的ホール

### 【参加者】

2次障害の当事者、医師、看護師、相談員、ケースワーカー、作業療法士、理学療法士

### 【主 催】

「HSK季刊わたぼうし」編集委員会

### 【後 援】

社会福祉法人徳充会「青山彩光苑」

### 【プログラム】

#### ①講 演

演 題：「二次障害の概要と手術」

二次障害とはどのようなものか?の講演、講師の発症から痛みとの戦い、手術の決断、リハビリ、職場復帰までの体験を語る。

講 師：

特定非営利活動法人

「自立生活支援センター富山」

理事長・平井 誠一氏

#### ②座談会

参加者の体験、持っている悩みを語ってもらい、痛みの癒やし方法などを話し合う。

何人かの手術を受けた人たちの話を交えて話し合う。

座談会司会

特定非営利活動法人

「自立生活支援センター富山」

事務局長・浅木 裕美氏

# 「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」について語ろう会

開催にあたり、青山彩光苑苑長・主催者のあいさつ



主催者：桶屋 司会：守友氏

(司会)

皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

今日は「脳性麻痺者の2次障害について語ろう会(頸椎症について語ろう会)」ということで、今回の企画につきましては、こちらの桶屋善一さんが脳性麻痺を伴う友人から手のしびれ、歩行困難、加齢に伴う頸の痛み等の悩みを語り合ったり、実際に手術を受けたといった話を多く聞いてきたという経験から、同様の悩みを持たれる方達で情報交換をすることにより、今後の生活に役立てられれば…と思いついたように思われます。

プログラムは2部構成となりまして、第1部が講演会で演題が「2次障害の概要と手術」となります。2次障害の発症から痛みとの戦い、手術の決断、リハビリ、職場復帰までの体験を語って下さるということです。講師は特定非営利活動法人自立生活支援センター富山」理事長の平井誠一さんです。

よろしくお願いいたします。

第2部は座談会で、参加者の体験や持っている悩みを語りあって頂きます。

中には実際に手術を受けた方々にも参加して頂けるということで、貴重なお話も聞けるかと思えます。座談会の司会は「特定非営利活動法人自立生活支援センター富山」事務局長の浅木裕美様です。

よろしくお願いいたします。

なお、お時間ですが1時半から2時半まで1時間を講演会。10分間休憩をはさみまして、2時40分から3時半位までを座談会にあてさせて頂く予定となっております。

それでは、さっそく講演会に移りたいのですが、その前に青山彩光苑苑長、今寺忠造からあいさつがございますので、よろしくお願いいたします。



青山彩光苑・今寺苑長あいさつ

## 青山彩光苑・今寺苑長あいさつ

(苑長)

皆さん、こんにちは。

今日は桶屋さんが主催した脳性麻痺の頸の障害についてですね。

皆さんと共に考えたいという企画がございまして、それに私たちも応援してくれということでございましたので、よっしゃよっしゃわかりましたよということで応援しているわけですが、いわゆる脳性麻痺になってですね、徐々に年齢が高くなってくると、いろんなところで頸の痛みとかしびれとかいろんな障害が出てきて困っているという方がたくさんいらっしゃいます。

うちのご利用の方でも現在手術して入院している人もいるわけがございまして、そういった中で実際に今回は富山県の方から平井理事長さんから体験を語っていただけるということでありますし、うちの方でもそういう方で手術した方もたくさんいて、先ほども痛くて痛くてどうもならない、良い話があったら聞かせてほしいわという声も聞かれていますので、こういう機会にいろんなところで意見交換をして良い会になってくれたらいいなあ。そういう思いです。

今日は初めての企画です。まずこういう障害を持つ方々が主体的にやるというのは県下では聞いたことがございませんので、そういった中で実りある座談会になるといいなと思っています。どうか一つよろしく願います。

(司会)

ありがとうございました。

続いて主催の桶屋さんからもあいさつがあ

るといことです。

桶屋さんのあいさつなんですが、ご本人さんから自分では読みづらいので代読してほしいと依頼を受けていますので、あいさつを代読させていただきます。



「脳性麻痺の2次障害(頸椎症)について語ろう会」の開催にあたり

皆さん、こんにちは。私は「脳性麻痺の2次障害(頸椎症)について語ろう会」を主催した、「HSKわたぼうし」の編集をしている桶屋善一です。

本日は沢山の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。

今回このような企画をさせて頂きましたのは、2人の60代の男性から頸が痛いのでどこか相談機関がないかと聞かれたり、知人や友人が手術を受けたという話を聞いたからです。

そのようなこともあり、なんとか「HSK季刊わたぼうし」を通じて情報を伝え合いたいと思いました。1月に入って京都の「頸髄症を学びあう会」との出会いからホームページを引用させていただいて、わたぼうしの編集を続けているうちに、先ほどの知人たち「頸の痛みから解放されたい」と言っていたのを思い出して懇談会の企画を作ってみました。

この企画書を苑長、職員に相談してみたら「やってみたら」と言われましたが、自分にはそんな能力もないので、何度も脳性麻痺の2次障害の講演会、懇談会、交流会を行っているC I L富山に相談をして、職員の方々の助言をいただきながら、本日の語ろう会の開催に至りました。

また今回は利用者の皆様にはアンケートにご協力いただき、青山彩光苑には後援、職員の皆様に本日まで助言、ご協力をいただきました。皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

今日が最初のスタートです。これから少しずつこのような企画をしていながら、2次障害をもっている方々の語らいの場、ネットワークになればと思っています。

今回はまず平井さんの体験談、2次障害に

ついて語っていただき、その後懇談会にしていきたいと思っています。以上です。

(桶屋)

ありがとうございました。

(司会)

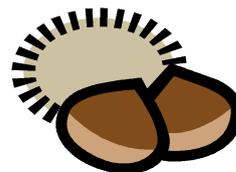
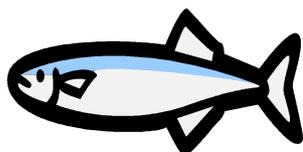
それでは、第1部の講演会を開始致します。講師の平井さん、よろしくお願いします。



パワーポイントを使って講演中



医師、相談員を交え、後半の懇談会



手作りの頸椎の模型を使って説明



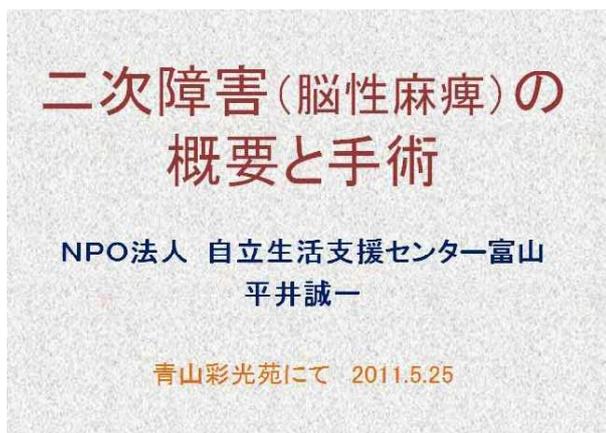
看護師、作業療法士を交え、後半の懇談会

5月25日(水)に青山彩光苑で開催しました『「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」について語ろう会』の講演を掲載していきます。

講演のパワーポイントは「自立生活支援センター富山」より提供されたものです。



講師の平井氏、浅木氏



(1) 自立生活支援センター富山の平井と言います。宜しくお願いします。

### 二次障害は生活習慣病？



6歳

生後6ヶ月目に発熱

1歳でひざの裏を手術

6歳の時に右足アキレス筋手術

(2) <二次障害は生活習慣病？>

これから見ていただくもの(パワーポイント)は僕の写真が結構多いのです。裸の写真もありますが、ちょっと見てほしいと思います。それでは。僕は昭和28年生まれです。生まれて6ヶ月目に発熱をして、それが原因で脳性麻痺になりました。1歳の時にひざの裏の手術をして、6歳の時にアキレス腱の手術をしました。この頃はまだ車いすでした。

### 7歳 歩行器で歩く 左側



(3) <7歳歩行器で歩く 左側>

これは7歳の時なんです。僕は背の小さい方です。何を見ていってほしいかという姿勢を見ていってほしいのです。今のところ首もみんな真っ直ぐですよ。写真見る限りは。僕の横にいる人は〇〇さんといって2年前に亡くなられたのですが、彼もまっすぐですよ。彼が亡くなる前は背骨が左にぎゅっと出た感じになっていたのです。腸捻転をよく起こして病院に入院していました。それだけ背骨が曲がってしまうと腸も影響を受けてしまって便が出なくなってしまうわけですね。

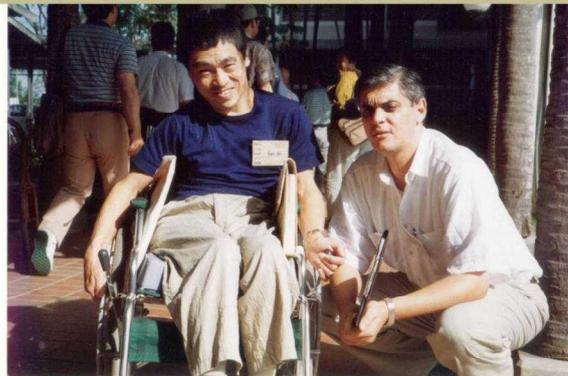


13歳  
11歳の時に杖をついて歩く



(4) <13歳 11歳の時に杖をついて歩く>  
これは僕が13歳の時です。一応歩くようになったのが11歳の時です。この頃は見られて分かるけど首から下の身体が弓のようにカーブしています。首は右に曲がっていますよね。少しずつ変化が出てくるのですが。

38歳  
25歳過ぎから歩行器を使う。  
この頃は、歩行器と車椅子を併用。



(6) <38歳>  
これは38歳の時なんですけど、よく見ると逆S字になっています。首とお尻が曲がってしまっています。そういうカーブを描いていくようになっています。25歳の時から歩行器や車いすを使うようになって来ました。



22歳  
杖なしでも歩く  
25歳頃から手にしびれが出る  
頸椎にとげが出る

(5) <22歳 杖なしで歩く>  
これは22歳の時で杖なしで歩けるようになっていました。歩くことが逆に影響したのかなと思います。25歳でピリッとしたしびれが指先に来ました。病院に行ったら「あんたはあと10年で寝たきりになるよ」といわれたことを覚えています。首の骨にとげが出ているといわれました。その頃はまだ二次障害というものが問題になっていなかった頃です。

53歳 前 手術3ヶ月前  
痛みもしびれもひどく、首が肩の中に入り込む



(7) <53歳>  
手術をする3ヶ月前です。首の周りの筋肉がほとんどないです。あと腕のここ、これは何というのですか。ここの筋肉も細くなってしまいました。ところが、この下は筋肉がそのままだったのです。ここだけがないのです。



53歳 後ろ 手術3ヶ月前



(8) <53歳後ろ>

これ後ろ姿です。右の肩が狭くなっています。お医者さんに言わせれば変形ではなくて肩が前に出ているのだらうと言われました。普通もうちょっと肩が後ろにあるものなんだけど肩が前に出ているからこうなっているのではと言われたのですが。

55歳 前 手術後1年



(10) <55歳前>

これは55歳の時の手術後1年ということで、まだ首は右に曲がっています。体も全体的に言えば左に曲がっています。

55歳 横 手術後1年



(9) <55歳横>

これは手術後1年ということで腕の太さが大分太くなってきました。首の回りも筋肉が付いてきて、どちらかというと僕は首が肩にめり込んでいるような感じだったのです。それを手術することで首がまっすぐになったので、これだけ伸びたような感じになりました。

58歳 前 手術後4年



(11) <58歳前>

これは今年です。この前撮ったのですが、だいたい体がまっすぐになってきています。首もまっすぐな形になってきています。



## 58歳 横 手術後4年



### (12) <58歳横>

これは横です。これも横から見てもまっすぐになってきたという感じです。腕も足もだいぶ筋肉がついてきました。

## レントゲンでは、わからない



手術前のMRI

### (14) <頸椎損傷による影響>

頸椎損傷の方は神経が切れているそうですが、僕らは切れているんじゃなく神経は来ているのだけれど、脳性麻痺は頸椎が圧迫されて頸椎が痛んでいくために痛みとかしびれとか障害になっているといわれます。

この映像でいくと、真ん中の部分がちょっと潰れているような感じになっています。その時は脊髄が押されている感じで脊髄が圧迫された感じになっているということです。これをどうするかというと、次に行きますけど

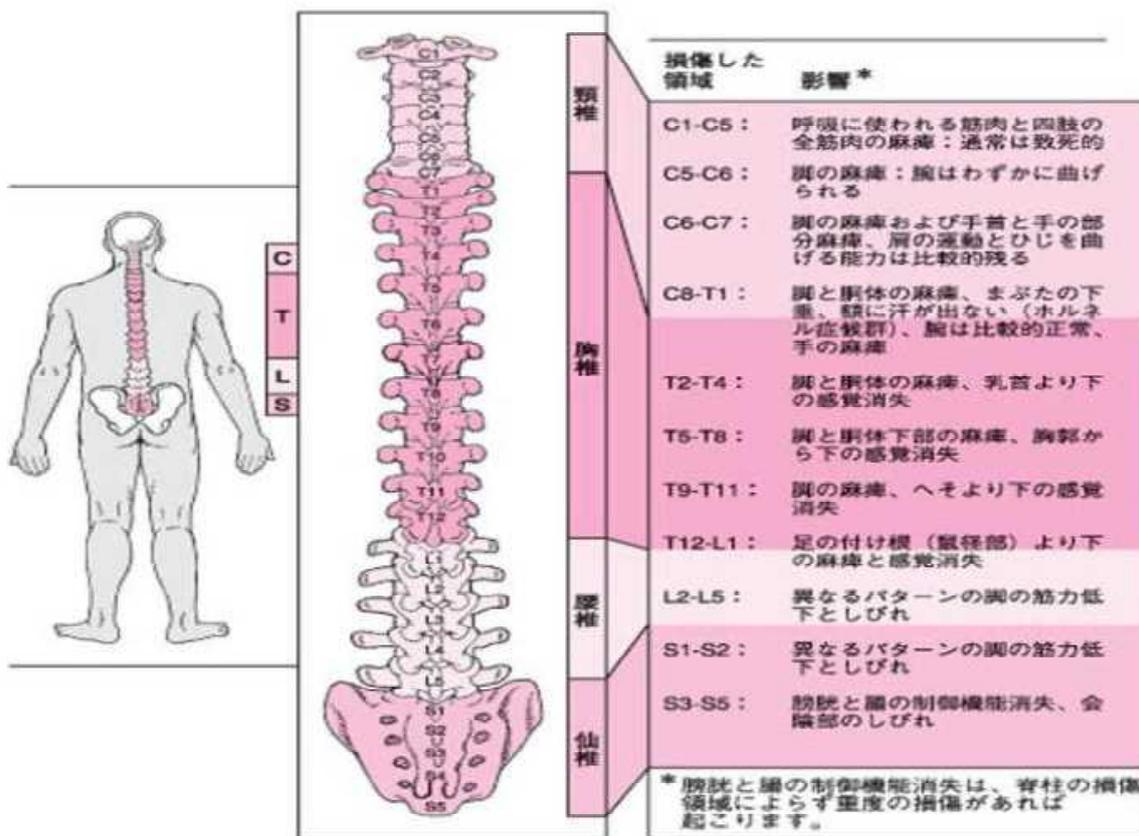
### (13) <レントゲンではわからない>

ここからが問題なんです。普通皆さん方しびれとか痛みとか出るとレントゲン撮られます。普通レントゲンでは骨の変形しか見えません。骨だけの変形を見て、ああたいたしたことないと言われるのですが、脳性麻痺の場合はレントゲンだけではわからないということでMRIを撮ったのですが、頸椎の2番、4番、5番ですね。僕の場合は、脊髄の中の骨が入り込んでいるわけですよ。骨が変形して脊髄が圧迫を受けて痛んでいくわけです。ちょっと下手な工作をしてきたのですが、これを頸椎とします。黄色いところ。この透明部分を脊髄と考えてもらって、一番上の頸椎の1番は頭蓋骨の中に入っているそうです。写ってくるのは2番目あたりから写ってくるらしいのですが、骨が変形するのはこういう形であるものがアテトーゼがあることによって骨が引っ張られたり縮められたりして、中の頸椎が狭くなると言われています。



も。すみません。その前に手術の前に話をしたいのは、頸椎は1番から7番まであります。その部分のどこの神経が圧迫されるかによって影響を受けるところが違うそうです。腕が動かなくなったりとか内臓関係に影響を受けたりとか。僕が言われているのは1番と2番がずれたら命が危ないからすぐ来なさいと言われているのですが。その頸椎のどこが圧迫されるかによって影響を受けるところが違うということをまず知っておいてほしいと思います。(説明図は次ページへ)

脊髄損傷による影響



「脊髄損傷による影響」の右表をわかりやすくしました。

部位	損傷した領域	影 響
頸 椎	C1-C5	呼吸に使われる筋肉と四肢の全筋肉の麻痺：致命的。
	C5-C6	脚の麻痺：腕はわずかに曲げられる。
	C6-C7	脚の麻痺および手首と手の部分麻痺、肩の運動と肘を曲げる能力は比較的残る。
	C8-T1	脚と胴体の麻痺、まぶたの下垂、額に汗が出ない(ホルネル症候群)、腕は比較的正常、手の麻痺。
胸 椎	T2-T4	脚と胴体の麻痺、乳首より下の感覚消失。
	T5-T8	脚と胴体下部の麻痺、胸郭から下の感覚消失。
	T9-T11	脚の麻痺、へそより下の感覚消失。
腰 椎	T12-L1	足の付け根(鼠径部)より下の麻痺と感覚消失。
	L2-L5	異なるパターンの脚の筋力低下としびれ。
仙 椎	S1-S2	異なるパターンの脚の筋力低下としびれ。
	S3-S5	膀胱と腸の制御機能消失、全陰部のしびれ。

※膀胱と腸の制御機能消失は、脊髄の損傷領域によらず重度の損傷があれば起こります。

次号へ続く～

# 七尾・羽咋で福祉まつり



10月1日(土)七尾「ミナ・クル」前。障がい福祉サービス事業所「ゆうの丘」手話コーラス



10月2日(日)県羽咋体育館前。TV東京系の「テレビチャンピオン」出場者の指導による子供たちと砂像作り。

## 編集後記

読者の皆さん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。

今回より文字を太くしてみました、読みやすくなりましたでしょうか。

3月11日の東日本大震災以来、福島第一原発の放射漏れ事故により、自宅へ帰れない、農産物への風評被害で経済的損失を受けるなど被害の拡大に怖さを覚えます。

私たちが住んでいる七尾市、羽咋市も、もし志賀原発から放射能漏れが起これば半径30km以内は避難指示が行われるようです。何よりも危険な原発より、安全なエネルギーの開発、使用を願います。(Z.O)



JR七尾線に走っているラッピング電車「七尾とうはくん号」(JR七尾駅)

### 年間協力会員募集中

この機関紙は障がいのある人、ない人がそれぞれの考えを出し合う中から、互いに理解を深め、共に生きる豊かな社会づくりを目的として、有志により発行しています。

つきましては、主旨に賛同して協力会員になっていただく方々を募集しています。

この会費で、在宅障がい者や福祉関係機関等に送付していますので、機関紙一部の料金ではなく、年間協力会費として扱っています。

年間協力会費：2,000円

会費振込先：郵便振替口座

振込先名義：わたぼうし連絡会

00750-6-9791

送付：春、夏、秋、冬

### 編集及び連絡先

ホームページを移動しました。

<http://jiritsusien.com/>

Eメール：zen@san9.net

定価 二〇〇円